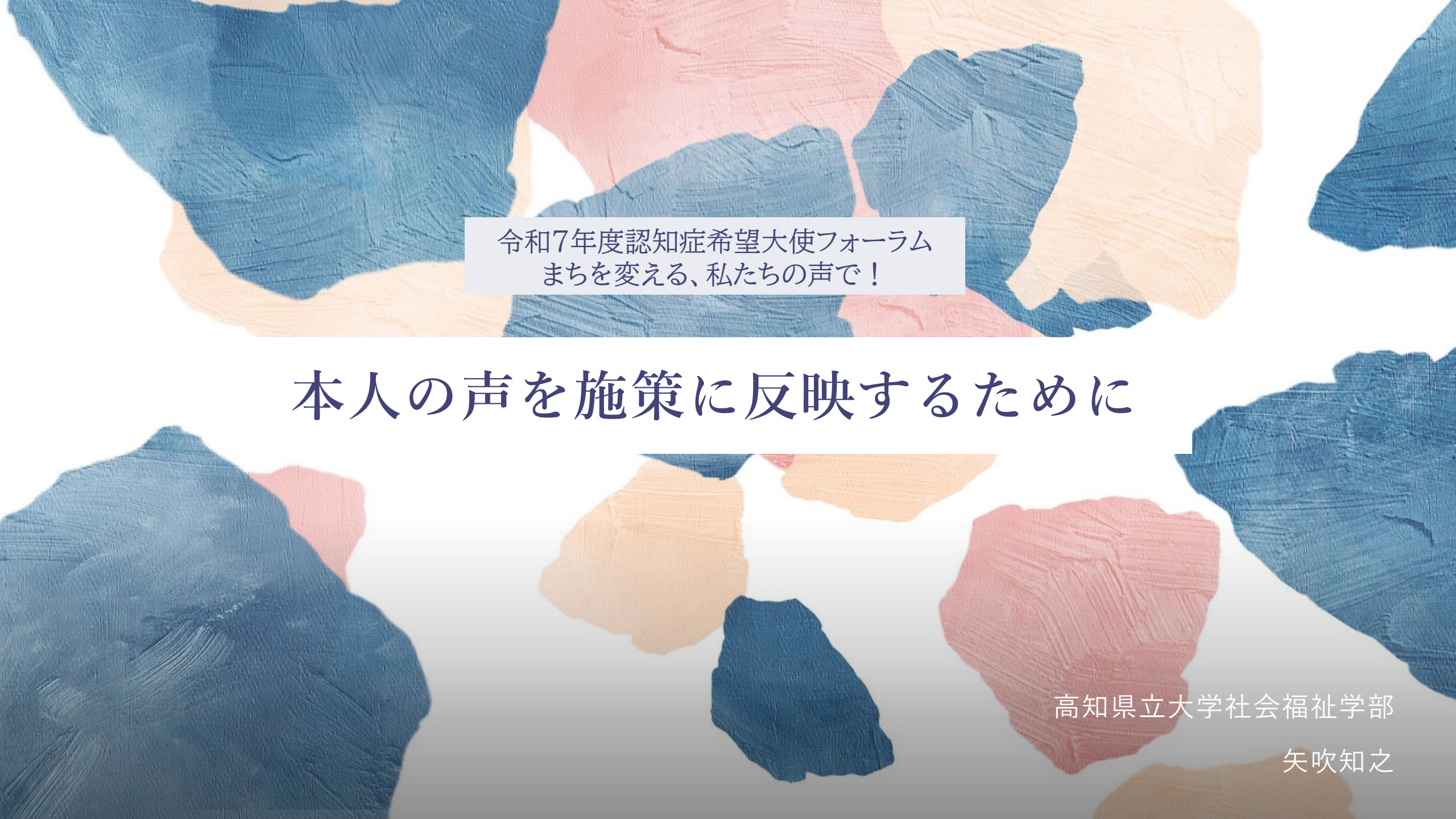




令和7年度認知症希望大使フォーラム
まちを変える、私たちの声で！

本人の声を施策に反映するために

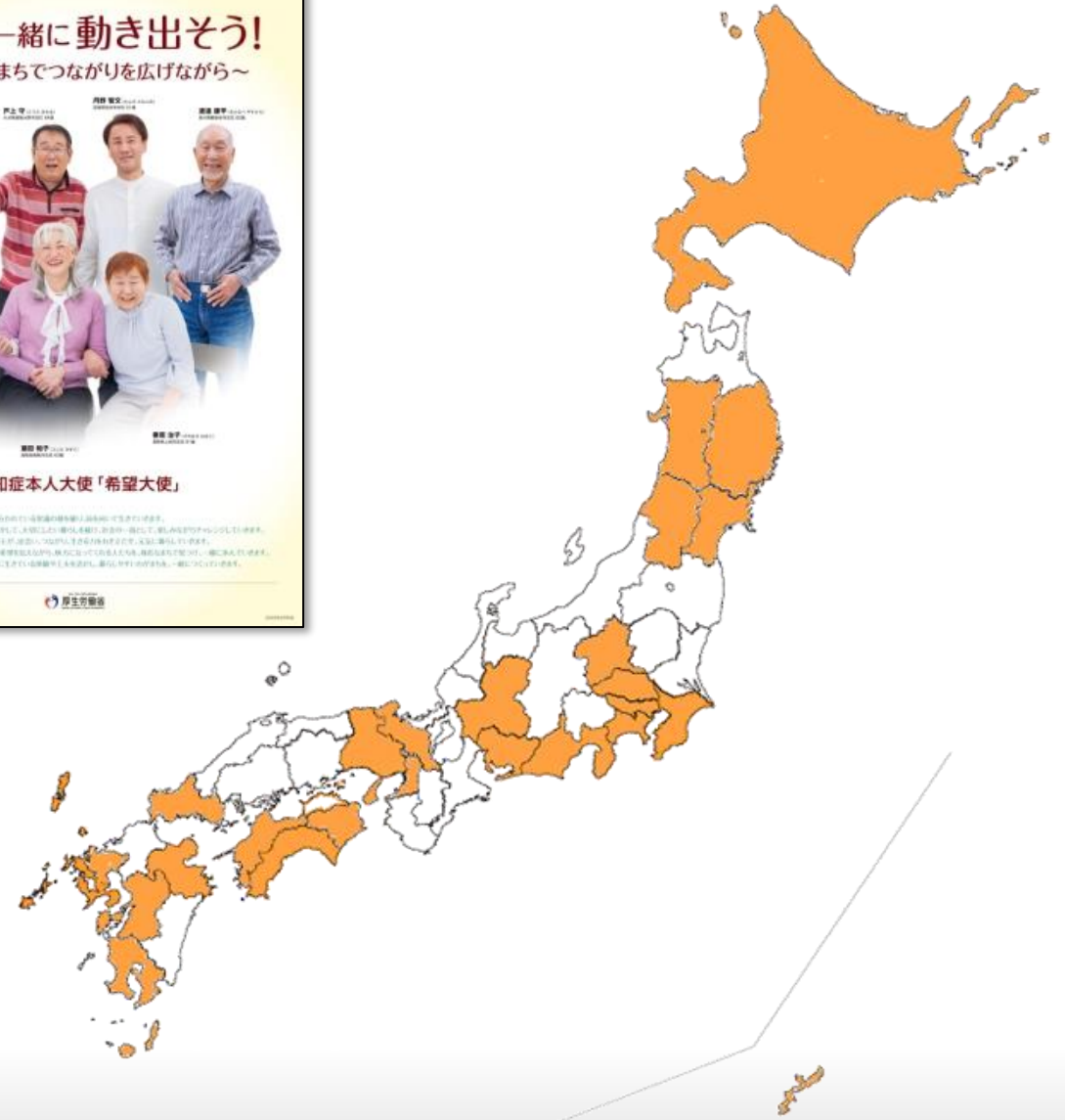
高知県立大学社会福祉学部

矢吹知之

認知症希望大使

- 全国それぞれの地域で暮らす認知症の人と共に普及啓発を進める体制を整備し、発信の機会を拡大することを目的として、都道府県ごとに「地域版希望大使」を設置することを目指しています。「地域版希望大使」には、認知症サポーター養成講座の講師であるキャラバン・メイトへの協力、都道府県が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力等に取り組んでいただきます。

(25都道府県、89名)



-
- 1900年 精神病患者監護法が制定。私宅監置を合法化
呉秀三(1865-1932)東京帝国大学教授「二つの不幸」
- 1930年代 癲狂→精神分裂病→統合失調症(2002)、痴狂→痴呆症
- 1972年 「恍惚の人」出版(有吉佐和子)
- 1980年 呆け老人を抱える家族の会発足
- 1986年 特養に認知症の人入居可能に以後、高齢者関連施設施策の本格化
- 2000年 介護保険法施行
- 2004年 痴呆から認知症へ（認知症施策が急速な進展を見せる）**
- 2012年 オレンジプラン 策定
- 2014年 日本認知症本人ワーキンググループ発足
- 2015年 新オレンジプラン 策定
- 2019年 認知症施策推進大綱 策定（認知症本人大使：認知症希望大使任命）

自らのこと、そしてこれからの社会のことを真剣に考え、声をあげられる認知症の本人がいます。

一人ひとりの声は小さくとも、

認知症の人本人が集まり、声を結集して行く中で、社会をよりよく変えていくための建設的な提案をしていきたいと願って、このワーキンググループが立ち上がりました。

声を上げたくてもあげられないでいる全国の多数の当事者の代弁をしていきたいと思います。

2014年

認知症とともに生きる 「希望大使」、誕生

認知症になっても何もわからなくなる、何もできなくなるわけではありません、わかること、できることはたくさんあります。どのように生きるかを選択するのは、あなた自身です。



希望の輪を
広げたい。



「認知症とともに生きる希望宣言」

- 1 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。
- 2 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
- 3 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。
- 4 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。
- 5 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを、一緒につくっていきます。

共生社会の実現を推進するための認知症基本法

2024年1月施行

(目的)

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進し、もって認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進

共生社会とは

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進

共生社会の実現の推進という目的に向け、基本理念等に基づき認知症施策を国・地方が一体となって講じていく



認知症施策推進基本計画

内閣官房閣僚会議で決定

「新しい認知症観」とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方である

新しい認知症観

- 認知症になったら終わり
- 認知症になったらすべて忘れてしまう
- 認知症になると10年後には亡くなる
- 認知症になると徘徊し、わけのわからないことを言う
- 認知症は絶望
- 認知症になったら何もできなくなるのではない。
- 認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがある
- 住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、**希望を持って**自分らしく暮らし続けることができる

- 「認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる」 ことの理解と普及啓発を図る
- 「共生社会の実現」を本人とともに進めていく姿勢やあり方を示していく

希望はともに活動することから始まります

夢や幸福と希望は何が違うのか？

いつの間にか、無意識のうちに育まれる「夢」

周囲の環境によって育まれる「希望」

一人でも見ることができるものが「夢」

一人でかなえることが難しいのが「希望」

行動が必ずしも伴うとは限らないものが「夢」

必ず行動が伴うものが「希望」

どんなに目標を定めて素晴らしい作戦を立てても、そのための行動をしなければ、希望をかなえることはできません。行動を起こすことは、ときに勇気が必要だったり、不安や苦しいこともあります。でも行動を起こさない限り状況を変えることはできないのです。

玄田有史：希望のつくり方， 岩波新書， 2010

これから考えていきたいこと

医学モデル

認知症はその人の中で宿り、それを取り除くことで解決される。

密室の中で苦勞する本人の変化

社会モデル

認知症はその人の中で宿るだけではなく、それを受け入れられない社会との「間」に生じる摩擦である。

社会環境の変化